

世界遺産

3

をゆく



サンタンドレア大聖堂＝
イタリア・アマルフィ

イタリア・アマルフィ海岸

イタリアを旅するときにはレンタカーを借りることにしている。クラクシヨンの洪水をかきわけて街中を走るのも一興なら、景色を楽しみつつ田舎を走るのもいいものだ。お気に入りのコースは、南イタリアが誇る世界遺産「アマルフィ海岸」である。

ローマから高速道路を飛ばして、まずはソレントへ。一般道に入って丘を越えると、いきなり青い海が現れる。ナポリ湾とベズビオ山が一望だ。さらに進めば、断崖絶壁の上にソレントの街が見えてくる。輝く海とがけに砕ける白い波には名曲「帰れソレントへ」がよく似合う。崖下からフェリーに乗り込み、「青の洞窟」で有名なカプリ島を訪れるのも悪くない。

ここで道路はソレント半島を横断して反対側へ。ますます複雑で急峻な海岸線のドライブを楽しもう。ボジターノのバスデル調の街並みが見えてきたら、いよいよ「アマルフィ海岸」だ。入り江には小さな集落が点在し、かんきつ類の段々畑が岩肌に彩りを添

心揺さぶられる快感

える。また海原をにらむ中世の見張り塔は、地中海の覇権争いの証人だ。眼前の光景は、この風光明媚な海岸が「文化遺産」である事実を思い起こさせる。

やがて絶壁を貫く洞窟を抜けると、とうとうアマルフィである。アマルフィはローマ時代から続く歴史を誇り、中世には海洋共和国として繁栄した街である。入り江に造られた街並みは、華麗な大聖堂がそびえる海側の広場から奥へいくほど細く狭まり、空間を求めて山肌の上に広がる。

中央通りから左右に入れ、白しつぽいのトンネルと

階段が迷路のような都市空間をつくり出している。複雑に折り重なる街並みの美しさ、そこに息づく生活の躍動感、それは圧倒的だ。険しい地形と街並みが見事に調和した景観は、訪れるたびに、ちんまりまとまった私の心を揺さぶり解体してしまう。しかし、それが快感なのだ。

おなががすいたら、恐れず白壁の迷路に飛び込んでみよう。目抜き通りに面した細い階段を上がると、すてきな香りが漂ってくる。私のお気に入りのトラットリア「イル・テアトロ」が、陽気な笑顔と素晴らしいアマルフィの海の幸で迎えてくれるだろう。

(文・写真、神戸夙川学院
大学講師 高根沢均)

